創作投稿コーナー しょしス

随筆　土崎の港祭り

大島 廉三 (S29K)

土崎湊(秋田港)は雄物川の河口に位置し、昔は秋田平野の農産物や材木の集散地で、北前船の寄港地でもあった。木目が細かい秋田杉で作った船は建造費が安く、堺から千石船など沢山の注文があり栄えました。

土崎の港祭りは、毎年7月20日が宵宮、21日が大祭りである。お祭りには勇ましい大きな半裸人形と武者人形を載せた山車(やま)が20台前後も出て、それは勇壮なものです。幼き頃、夏の日が暮れお祭りに備え練習する太鼓の音が聞こえ出すと大人も子どもも気分が浮きたった。今でも7月20日になると土崎の港祭りがまぶたに浮かび故郷へ帰り山車を引きたくなる。

土崎のお祭りは、「港祭り」や「カスベ祭り」とも言われている。港祭りは神明社の例大祭です。神明社は湊城址(安東氏の出羽・湊城)にありますが、この城は千秋公園・久保田城の前に使われた城でした。徳川方が大阪夏の陣で勝利したあと、大名の配置替えで常陸(茨城県)の国から転封された佐竹藩が最初に入った城だったのです。しかし要害のない平地の城では防御性が薄いため神明山(千秋公園)へ作ったのが久保田城。このような歴史ある城址に祀られた神明社は土崎の鎮守様であり、この例大祭は土崎全町の大切な行事なのです。

カスベ祭りとは、夏になると日本海の漁獲量が少ない季節のため、保存のきくカスベ(北海道で獲れた赤エイ等の乾物)を主材とした「カスベの煮こごり」や「カスベの煮つけ」を作って食す習慣からきたものです。どこの家庭でも必ず作って柔らかさと甘さや塩加減で主婦が腕を競うとか。カスベの煮つけは懐かしいオフクロの味ですが、カスベは東京の店頭に並んでいません。

土崎は港町のせいか新屋と並んで気が荒いという。そのせいか土崎の港祭りは威勢がよく、昔は山車同士の喧嘩が当たり前だったらしい。山車に載せる勇ましい裸人形・武者人形は、寺内にある護国神社・裏手東脇通りの越前谷工房が作っていて一店しかない。今の人形師は4代目だが、伝統の老舗は何百年も続いている。

秋田県で山車が出る三大祭りは「土崎の港祭りと角館祭りのやま行事と花輪祭りの屋台行事(花輪ばやし)」といずれも国の重要無形民俗文化財に指定されている。

神明社参拝の順番を待つ山車 (2015-7-20)

※ 祭りの模様の動画は「土崎港曳山まつりＨＰ」をご覧ください

◆投　稿　先

随時投稿作品を受け付けます。

- 嵯峨 良平　saga_ryohei@ybb.ne.jp
- 赤間 政志　masashi.akama.rh@hitachi.com

ことばのあそび

鈴木 彦之 (S31M)

ことばのあそび

はらづくし

腹黒い　腹芸、腹時計　腹鼓
腹違い　腹構え　腹積もり　腹くくる
腹応え　腹這え　腹が太い
腹を立てる　腹を探る　腹を読む
腹を割る　腹を決める　腹を固める
腹に収める　腹を肥やす　腹を切る
腹べ悪り　腹に据えかねる
腹が煮えくり返る　腹が据わる
腹を抱えて笑う　腹がよじれる
腹の虫　腹の足し　腹具合　腹を下す
腹八分　腹へった　腹ごしらえ
腹いっぺ　腹つれ・・・・・・満腹

ショートエッセイ with フォト　ちょっとこだわりの噺 2題

舩木 一美 (S48M)

＊ マイギター

長いことノータッチだったギターケースを開けた。弦が少し錆び気味、以外何の支障もなく、ホッ・・。今は無き幻のギターメーカー<ヤマキ>の手工製、Hand Made Yamaki. Model No.165。いうなれば他に同じモデルのない１台、のマイギターである。手に入れたのは1975年。就職して最初の一番高価な買い物は？と聞かれたら、これ、と答えるなきっと。20代は、このギターと共にあったといっても過言じゃない。このギターを手にして以降のしばらく、私の音楽環境は異常(?)なくらい楽しいものだった。30を過ぎた辺りを境にギターを手にする機会がなくなった。特に理由なし。自然の成りゆき(?)というやつ。ただ気持ち中では今もギターをかき鳴らし続けている。ケースを開けて以来、ギターのことが頭から離れなくなった。新しい弦とサムピックを買った。痛くなるのを承知で、指に弦ダコを作ろうかと思ってはいるが、果たしていつになったら始めるのやら・・である。ちなみに私の秋工時代の所属部は音楽部。

＊ 送電鉄塔に見た浪漫

主人公の少年が送電鉄塔の番号順を辿って冒険・・・・という、第6回ファンタジーノベル賞を受賞し映画にもなった「鉄塔　武蔵野線」なる本がある。またこの本がきっかけ(?)と思しき、鉄塔マニアなる方々の存在があり、とあるネットサイトによれば、この本はその方々にとってバイブル的存在で、物語のスタート地点として登場する武蔵野変電所(実在)は、ある意味での聖地、なのだとか。ちなみにマニア聖地の武蔵野変電所は、我家から徒歩20分ほどのお気に入り散歩コースにある。これを知ったのは某先輩が経営する会社の送電鉄塔関連の業務ガイドを制作依頼されたことからだった。それ以前、散歩・散策好きの私にとって、送電鉄塔や送電線は良い景色の邪魔をする野暮の骨頂・・てな具合の存在だった。が、仕事にかこつけてあれこれ調べ、近場を見て回り(散歩)、そのいろいろを知るにつれ、さすがにマニアの仲間入り、とまではいかなかったが、景色の邪魔云々はさておき・・になったのだった。どんなもんにも浪漫があるもんだ・・と、つくづく。

(写真は私のお気に入り送電鉄塔／武蔵野変電所そば)

創作投稿コーナー しょしス

フォト 5-7-5

三浦 芳輝 (S39K)

今年も咲く　春の輝き　我が庭に

左上：牡丹・左下：ラン・右：さくらんぼ

櫓太鼓　塩も控えた　春相撲

フォト短歌

王　子雲 (S43E)

清明

雨の旅　たまらず尋ね　酒屋いずこ
杏子(あんず)咲く村　牧童指す

我家の杏の花

杜牧の漢詩に「清明」があり、同じ内容を短歌にした。清明とは24節気の一つで、2016年は4月4日だった。この日は中国・台湾の祝日で、お墓参りの日でもある。なお清明の頃は雨の日が多くなり、杜牧はこれを七言絶句にした。

ステンドグラス

一ノ関 茂夫 (S44E)

クレマチスの灯

フォト 5-7-5

王　子雲 (S43E)

しどけ採り
酒の肴に　一杯呑む

山菜しどけ

フォト 5-7-5

堀　健市 (S38A)

夏の夕　御巣鷹山に　散るつばさ

(ご冥福をお祈りします)

フォト俳句

加賀谷 健治 (S36E)

冬

駅前の
電装で知る
年の暮れ

秋

奥日光
三滝彩る
蔦紅葉

華厳の滝

竜頭滝

湯滝

男体山

夏

夾竹桃
切り倒されし
散歩道

春

前は富士
後ろ桜の
並木道